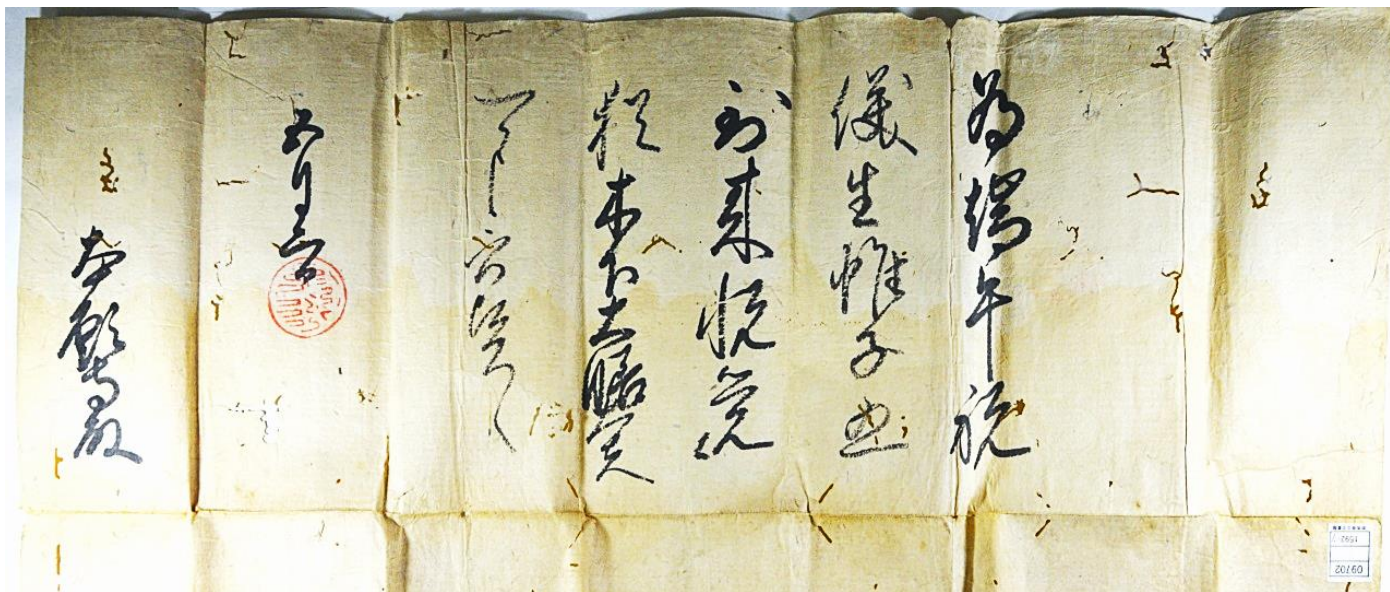




豊臣秀吉朱印状

文禄3年(1594)もしくは文禄4年(1595)

端午の節句に本願寺が^{かたびら}帷子を献上してきたことへの秀吉からの礼状です。発給に関わった秀吉の側近木下吉隆(?~1598)が文禄2年(1593)10月6日までに大膳^{だいぜん}大夫に任じられ、同4年7月13日までに秀次事件に関与し流罪が決定しているので、文禄3年か4年の5月に出された文書^{きょうによ}と推定できます。秀吉は文禄2年に教如(1558~1614)を本願寺門主から退け、弟の准如(1577~1631)を新門主に据えるなど、本願寺教団分裂のさなかに発給されたと思われる文書で、天下人秀吉と本願寺教団との複雑な関係がうかがえます。

八木健次家文書 P09702 No.1592-7

豊臣秀吉朱印状

(年次未詳)

《釈文》

為三端午祝

儀一、生帷子五

到来、悦覚候、

猶木下大膳大夫

可申候、穴賢く、

五月二日(朱印)

本願寺殿

《読み下し文》

端午(たんご)の祝儀(しゅうぎ)として、

生帷子(きかたびら)五

到来、悦(えつ)に覚え候、

猶(なお)木下大膳大夫へ

申すべく候、あなかしこ、あなかしこ、

五月二日(朱印)

本願寺殿

【八木健次家文書 P〇九七〇二 No.一五九二―七】